

神々の郷

2025年国際会議件数ランキングで松江が国内第9位!!

ICCA（国際会議協会）より、2025年に世界各地で開催された国際会議の統計結果が公表されました。

松江は、東京、大阪、横浜などの大都市とともに、国内都市別ランキングにおいて初のベスト10入りを果たし、第9位となりました。地方都市として大変意義深く、松江が国際会議開催地として国内外から高く評価されていることを示す結果となりました。また、アジア太平洋地域の都市別ランキングでは44位、世界ランキングでは198位となりました。

日本全体では、会議件数が2024年統計より15%増の491件となり、世界国別ランキングは前年より1つ順位を上げ世界第6位となりました。アジア太平洋地域では、2位以下を大きく上回り、引き続き1位を維持しています。

松江における国際会議の開催件数は年々増えており、今後もより多くの国際会議が開催されるよう、積極的な誘致活動に取り組み、さらなる国内上位を目指してまいります。賛助会員の皆様をはじめ、関係者の皆様におかれましても、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

※出典：ICCA(国際会議協会)統計データより、日本政府観光局(JNTO)が日本語で作成
(ICCA: International Congress and Convention Association)

※ICCAの国際会議統計の選定基準は、次の3つを満たすもの。

①参加者総数：50名以上

②開催期間：定期的に開催（1回のみ開催した会議は除外）

③開催国について：日本を含む 3カ国以上で会議のローテーションがある（2カ国間会議、政府系会議、国連主催の会議は除外）

ICCA(国際会議協会)による日本国内国際会議ランキング推移表

2022年			2023年			2024年			2025年		
国内	都市名	件数	国内	都市名	件数	国内	都市名	件数	国内	都市名	件数
1	東京	39	1	東京	91	1	東京	97	1	東京	119
2	京都	29	2	京都	41	2	京都	49	2	京都	53
3	札幌	15	3	大阪	20	3	大阪	27	3	大阪	35
	横浜	15		横浜	20	4	札幌	24	4	札幌	24
5	神戸	10	5	福岡	17	5	福岡	21	5	福岡	23
6	名古屋	9		札幌	17	6	北九州	15		横浜	23
	仙台	9	7	仙台	15	7	名古屋	14	7	北九州	16
8	福岡	8	8	神戸	12		横浜	14	8	神戸	15
	広島	8	9	名古屋	11	9	仙台	13	9	松江	14
	金沢	8	10	つくば	9		つくば	13	10	仙台	11
11	松江	7	11	広島	7	11	広島	12	11	奈良	10
12	北九州	6	12	富山	6	13	金沢	8	12	金沢	9
	富山	6	13	松江	5	14	松江	7		つくば	9
14	大阪	5		奈良	5	15	奈良	6	14	名古屋	7
				新潟	5	16	富山	5	15	広島	6
									16	鹿児島	5
										熊本	5
										恩納	5
										高松	5

新任あいさつ

専務理事 ^{なぎら} 柳樂 ひとみ

この度、一般財団法人くにびきメッセの専務理事に就任いたしました柳樂でございます。

当財団は、地域の魅力を国内外へ広く発信し、コンベンションの誘致・開催を通じて、地域経済の活性化と交流の促進を目指してまいりました。

今後も関係機関や地域の皆様との連携を一層深めながら、松江の魅力を活かしたコンベンション誘致に努めまいります。

微力ではございますが、当財団の事業に全力で取り組んでまいりますので、皆様方のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般財団法人 くにびきメッセ 人事異動

(2026年6月25日付)

<新任>

専務理事 柳樂 ひとみ

<退任>

専務理事 難波 賢二

コンベンション支援制度説明会を開催しました

松江工業高等専門学校にて、教職員の皆様を対象にした、コンベンション誘致および開催支援に関する各種制度の説明会を開催しました。

当日は、支援制度の概要や活用事例などを紹介し、参加者の皆様に制度への理解を深めていただきました。

質疑応答では、多くのご質問やご意見をいただき、制度に対する関心の高さがうかがえました。

今後は、県内の大学にも訪問し、支援制度の説明を行う予定です。

コンベンションの開催促進と地域活性化に向けて、今後も関係者の皆様への情報提供と支援に取り組んでまいります。



くにびきメッセ関連情報

くにびきメッセ公式X、はじめました！



くにびきメッセでは、イベント情報や施設の最新ニュースをもっと身近にお届けするため、公式X（旧Twitter）を開設しました。

「これから開催されるイベントをチェックしたい！」、「会場設備やサービスについて知りたい！」、「催事運営に役立つ情報を見たい！」そんな皆さまに向けて、タイムリーで役立つ情報を発信していきます。

イベント主催をご検討中の方はもちろん、ご来場予定の方にも楽しんでいただける内容をお届け予定です！皆さまのフォローをお待ちしております！

しまねの伝統工芸

つづがきあいぞめ 長田染工場の筒描藍染

出雲市内を流れる高瀬川沿いに、5代続く長田染工場があります。

長田さんの藍染は、先の細い、深さ20cmはありそうな柔らかい材質の三角錐の道具に、ノリのような材料をいれて、絞り出しながら絵柄を布に描きます。乾かして藍甕に浸けて染めては乾かし、乾かしては染めて昔ながらの紺の香ゆかしい藍で染め上げます。その絵柄には「家紋」「鶴亀」「松竹梅」「宝尽くし」「雀」「牡丹」などの吉祥紋が使われます。藍色は濃淡が楽しめます。長田さんの藍色はとても深く、その地色の上に、真白い線の絵柄がとても鮮明で爽やかです。

藍染をしたものは、江戸時代から庶民の生活用品として作られていました。この出雲地方では、婚礼の際には必ず、布団、夜具、筆筒、長持、吊台、狭箱、風呂敷、提灯袋、傘袋、足拭き、などが嫁入り道具に。子供が生まれたら子負帯、湯上、おむつなどが用意されました。藍で染めた布物は、生地が強くなり虫が嫌うのが特徴です。縁起の良い柄は今でも、三巾、二巾、あるいは四巾などの風呂敷として作られています。目的は昔とは少し異なり、タペストリーや額装、テーブルクロスでしょうか。



昭和40年には島根県無形文化財に、昭和57年には島根ふるさと伝統工芸品に指定されました。

紺屋も最盛期には、この地方で数十軒あったとか。化学繊維の発展により衰退し、今では筒描き藍染めを営むのは、長田さん一軒となりました。今は息子の匡央さんが5代目を引き継ぎます。作品は、現代の生活に溶け込めるサイズの工夫や、柄、製品の種類も多様になりつつあります。これからも筒描の藍染製品が生活の中に生き続けますように。

松江コンベンションビューロー 一般財団法人くにびきメッセ

〒690-0826 島根県松江市学園南1丁目2番1号

TEL.0852-32-1903 FAX.0852-22-9219

E-mail: messe@sx.miracle.ne.jp

▶コンベンションスケジュールはこちらから◀



コンベンション開催支援に関する情報は、ホームページをご覧ください。